

令和3年10月1日開催 第69回副反応検討部会・令和3年第18回安全対策調査会 におけるHPVワクチンに関する審議 概要

論点

- HPVワクチンに関する課題への対応として、
 - ① HPVワクチンの安全性・有効性に関する最新のエビデンスの整理
 - ② HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援についての状況
 - ③ HPVワクチンに関する情報提供それぞれについて整理した上で、現在、HPVワクチンの定期接種の積極的な勧奨が差し控えられていることについて、審議。

主なご意見

- HPVワクチン接種後に生じた多様な症状とHPVワクチンとの関連についてのエビデンスは認められていない。また、海外の大規模調査において、子宮頸がんに対する予防効果が示されてきている。
- HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援について、適切な対応がなされてきた。
- HPVのリーフレットが分かりやすく改訂され、リーフレット等の個別通知が行われるようになり、現在、ワクチンの安全性と有効性について、十分な情報提供が行われるようになっている。



大きな方向性として、**積極的勧奨の再開を妨げる要素はない**

- 一方で、HPVワクチンの接種を進めるに当たり必要となる事項について、以下のようなご意見があった。
 - ・ 地域で不安なく接種できるよう、協力医療機関の体制強化や地域の医療機関や学校等の連携強化が必要
 - ・ 最新のエビデンス等を踏まえたリーフレットの改訂が必要
 - ・ 積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方への対応（キャッチアップ）について検討が必要 等